

第5課 原因與理由：ため（に）・によって／ による・から／ことから・おかげで／せいで・のだから

第5課講「原因與理由」。N5、N4 學過的 ～から、～ので 是最基本的講法；到 N3 要再學會一組更精準的表達：較書面的 ～ため（に）、表示原因或手段的 ～によって、由事實推斷的 ～ことから、帶感情色彩的 ～おかげで／～せいで，以及強調「既然（你都知道）」的 ～のだから。

■ 今課目標

- 用 ～ため（に）表達較書面的「因為...（所以）」。
- 用 ～によって／～による 表達「由於...」或「透過...（手段）」。
- 用 ～から／～ことから 表達「起因於...」「從...這事實判斷」。
- 分清 ～おかげで（多得，好結果）和 ～せいで（都怪，壞結果）。
- 用 ～のだから 強調「既然是...（你也知道），當然就...」。

一、～ため（に）：因為...（書面）

■ 較書面的原因表達

～ため（に）表示原因，語氣比 ～から／～ので 硬，多用於書面或正式場合。注意：後句不能是希望、意志或請求、命令（不能說「～ため、～しよう／～してください」）。

■ 形式規則

名詞＋の／普通形（な形容詞＋な／である・名詞＋の／である）＋ため（に）。後句是客觀的結果，不能帶意志或請求。

■ 例句

1. 事故の**ため**、電車が遅れている。

→ 因為發生事故，電車正在誤點。

2. 大雪が降った**ために**、試合は中止になった。

→ 因為下了大雪，比賽取消了。

3. この村には医者がない**ために**、となりの町まで行かなければならない。

→ 因為這條村沒有醫生，要去隔壁的鎮。

4. 不注意だった**ために**、大きなミスをしてしまった。

→ 因為一時大意，犯了個大錯。

二、～によって／～による：由於...／透過...

■ 原因，或手段

～によって 在這裡有兩個意思：①「由於...（原因）」（不注意によって事故が起きた）；②「透過...（手段、方法）」（努力によって成功した）。修飾名詞時用 ～による＋名詞（地震による被害）。語氣較書面。

■ 和第2課的 によって 不同

第2課的 によって 解「因...而異」（習慣は国によって違う）。本課的 によって 解「由於／透過」。同一個詞、不同意思，要靠後句判斷：後句講『差異』就是第2課；後句講『因此產生的結果或手段』就是本課。

■ 形式規則

名詞＋によって（句中）／による＋名詞（修飾名詞）。

■ 例句

1. 不注意によって、大きな事故が起きた。
→ 由於不小心，發生了嚴重的事故。(原因)
2. 地震による被害は、予想以上に大きかった。
→ 地震造成的損失，比預想中大。(による+名詞)
3. 外国語を学ぶことによって、その国の文化も理解できる。
→ 透過學外語，也能理解那個國家的文化。(手段)
4. 長年の努力によって、彼は成功をつかんだ。
→ 憑著多年的努力，他取得了成功。(手段)

三、～から／～ことから：起因於...／從...判斷

■ 發展的起點，或判斷的根據

這裡的「名詞＋から」表示「以某件小事為起點，發展成後面的結果」（ささいな誤解から...）。「～ことから」則表示「根據某個事實，推斷出後面的結論」（顔が似ていることから親子だと分かった）。

■ 形式規則

名詞 + から（起點）；普通形（な形容詞＋な／である・名詞＋である）+ ことから（判斷根據）。

■ 例句

1. ささいな誤解から、けんかになってしまった。
→ 因為一個小誤會，竟然吵了起來。(起因)
2. 道が濡れていることから、夜中に雨が降ったと分かる。
→ 從路面是濕的，可以判斷半夜下過雨。(根據)
3. 顔がよく似ていることから、二人は兄弟だとすぐに分かった。
→ 從兩人長得很像，馬上看出他們是兄弟。
4. たばこの不始末から、火事になった。
→ 因為亂丟煙頭，引起了火災。(起因)

四、～おかげで／～せいで：多得...／都怪...

■ 好結果用 おかげで，壞結果用 せいで

～おかげで 表示「多得... (才有好結果)」，帶感謝、正面的語氣；～せいで 表示「都怪... (才有壞結果)」，帶埋怨、負面的語氣。兩者選哪一個，視乎結果是好是壞。

■ 形式規則

名詞＋の／動詞・形容詞普通形（な形容詞＋な）＋ おかげで／せいで。おかげで＝好結果；せいで＝壞結果。

■ 例句

1. 先生のおかげで、試験に合格できました。
→ 多得老師，我才能考試合格。(好結果，感謝)
2. 天気がよかったおかげで、楽しい旅行になった。
→ 多得天氣好，旅行很愉快。
3. 寝坊したせいで、電車に乗り遅れた。
→ 都怪睡過頭，趕不上電車。(壞結果，埋怨)
4. 物価が上がったせいで、生活が苦しくなった。
→ 都怪物價上漲，生活變得艱難。

五、～のだから：既然（是）...，當然就...

■ 以對方也知道的事實為理由

～のだから 把「對方也知道的事實」當作理由，引出說話人的判斷、主張、勸告或請求。語氣是「既然是... (你也清楚)，那當然／就應該...」。和前面幾個不同，のだから 後句可以帶意志、請求、命令。

■ 形式規則

普通形（な形容詞＋な・名詞＋な）＋ のだから（口語 んだから）。後句可帶判斷、勸告或請求。

■ 例句

1. もう大人なのだから、自分で責任を持ちなさい。
→ 既然已經是大人了，就要自己負責任。
2. 約束したのだから、必ず守ってください。
→ 既然答應了，就一定要遵守。
3. せっかく来たのだから、ゆっくりしてってください。
→ 既然特地來了，就好好待一會吧。
4. けがをしているんだから、無理をしてはいけませんよ。
→ 既然受了傷，就不要勉強啊。

六、常見錯誤與總整理

■ 常見錯誤

- ✕ 雨が降っているため、傘を持ってってください。
○ **雨が降っているのだから、傘を持ってってください。**
ため 後句不能帶請求；要帶勸告／請求時，用 のだから。
- ✕ 彼のせいで、試験に合格できた。
○ **彼のおかげで、試験に合格できた。**
好結果用 おかげで；せいで 用於壞結果，帶埋怨。
- ✕ 習慣は国によって、生活が便利になった。
○ **習慣は国によって違う。／技術の進歩によって、生活が便利になった。**
「因...而異」（第2課）後句講差異；「由於...」（本課）後句講結果，兩者不要混用。
- ✕ 顔が似ているから、親子だと分かった。
○ **顔が似ていることから、親子だと分かった。**
「從某事實推斷出結論」要用 ことから。
- ✕ 地震によって被害が大きかった。（修飾名詞時）
○ **地震による被害が大きかった。**
後面直接接名詞時，用 ～による＋名詞，不是 によって。

自己輸出：用本課的句型寫三句。一句用 おかげで（好事），一句用 せいで（壞事），一句用 のだから（既然...就...）。
